

第3回新・環境首都とくしま憲章（仮称）策定委員会 議事概要

1 日 時

平成26年9月9日（火） 午後3時30分から午後4時30分まで

2 場 所

県庁4階 402会議室

3 出席者

【委員】委員9名中6名出席

近藤光男委員長，津川なち子副委員長，唐渡義泊委員，青木正繁委員，
松田和代委員，大西宏昌委員

【事務局】

割石環境首都課長，住田課長補佐，山川主任主事

4 会議次第

(1)開会

(2)あいさつ

(3)議題

i)第1回シンポジウムについて

ii)素案について

iii)パブリックコメントの実施について

iv)名称の募集について

(4)閉会

5 議事概要

策定委員会委員から出た意見等は次のとおりであった。

(2)素案について

●「見える化」について，説明があった方がいいのでは。

●「学ぶ」分類に，自然環境のことだけでなく，地球温暖化のことなども，科学的知識を持って実践していくことが重要なので，学習会を行う等といった項目を追加してはどうか。

●家電の買い換えの項目について，最近は「エコモード」がついている製品等もあるので，そういった面を項目に反映させるのはどうか。

●「学ぶ」分類にエコツーリズムの項目が移動しているが，「親しむ」の方が内容に沿っているのでは。

●「お年寄りに昔の生活の様子を学び……」とあるが，時代が変わり，孫がいる方でも高度成長期に活躍してきた人が多くなっている。昔の生活というと戦前頃

の生活をイメージしてしまうので、表現を変えて伝えてはどうか。

●「お風呂の残り湯などを活用し……」とあるが、洗濯等に残り湯を使用するのは推奨される一方、衣服の汚れ等が気になり、なかなか実践できないのが実情である。

●洗濯に限らず、庭の水やりや掃除に活用するとか、風呂の残り湯以外にも節水の方法はたくさんある。

●将来、環境が劇的に良くなるような技術革新が起こったりするかもしれない。そういった場合に常に新しい情報をキャッチする意識を持つ、情報を学ぶといったことも、環境にとって大切なのではないか。

●語呂合わせは分かりやすく良いが、キッズバージョンの「しぜんにやさしいこと」が抽象的で、子どもには分かりづらいのではないか。

●ある程度抽象的であっても、逆に自分で考えてみようというきっかけになるのでは。環境学習等でも、「しぜんにやさしいことって何だと思う？」という風に問いかけることにより学習が進むのでは。